

令和4年度 大竹市防災セミナー

災害に強い地域づくり

広島県自主防災アドバイザー
防災士 柳迫長三



広島県で発生した主な土砂災害

国土交通省資料から

実際に過去から甚大な土砂災害が頻発しており、広島で起きた土砂災害を契機に、**急傾斜地法、土砂災害防止法が制定**されるなど、全国の土砂災害防止施策へ影響

No	年月	要因	主な被災地	最大時間雨量	死者 行方不明者	関連法令
1	S20.9	枕崎台風	呉市・大野町	57.1mm	2,012人	
2	S26.10	ルース台風	大竹市・佐伯郡	26.2mm	166人	
3	S42.7	集中豪雨	呉市	74.7mm	159人	急傾斜地法制定
4	S47.7	集中豪雨	三次市	40.0mm	39人	
5	S63.7	集中豪雨	加計町	57.0mm	15人	
6	H11.6	集中豪雨	広島市・呉市	81.0mm	32人	土砂災害防止法制定
7	H22.7	集中豪雨	庄原市・呉市	91.0mm	3人	
8	H26.8	集中豪雨	広島市	121.0mm	77人	土砂災害防止法改正
9	H30.7	集中豪雨	広島県南部	63.0mm	147人	



(No.1) 廿日市市(厳島神社)



(No.3) 呉市警固屋



(No.6) 広島市佐伯区



(No.8) 広島市安佐南区

広島県の過去の土砂災害との比較

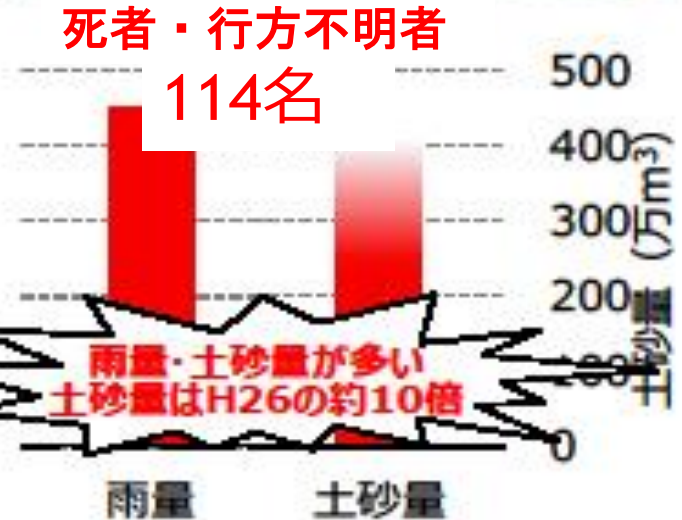
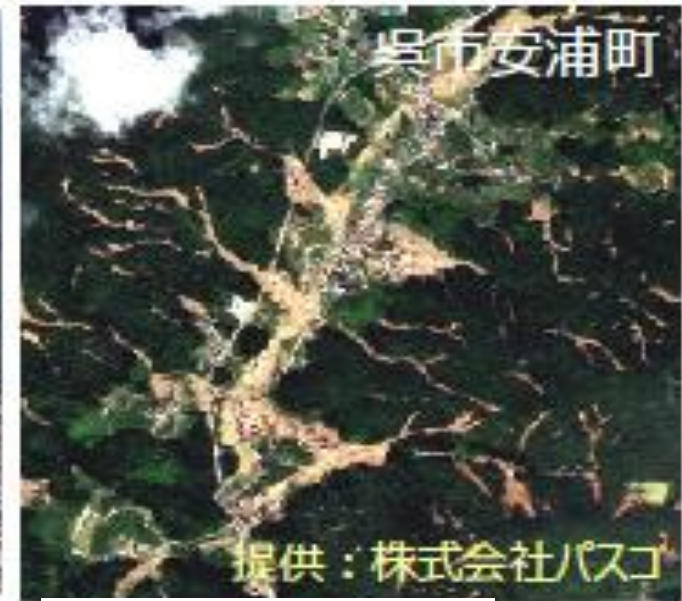
平成11年6.29災害



平成26年8.20災害



平成30年7月豪雨災害



※1 雨量はH11は呉観測所、H26は三入観測所、H30は野呂川ダム観測所を基に整理

※2 平成30年7月豪雨の土砂量は衛星画像から画像処理により崩壊箇所を抽出し簡易的に算出した速報値である。衛星画像に雲が映り込んでいること、画像歪

豪雨災害時、早めの避難を訴える理由

付近住民が避難路として利用するはずだった道路は、大量の水や土砂によって避難できない状態となりました。遅れた避難は、流されたり、土砂に埋まる犠牲者が多数発生しました。

安佐南区八木3丁目

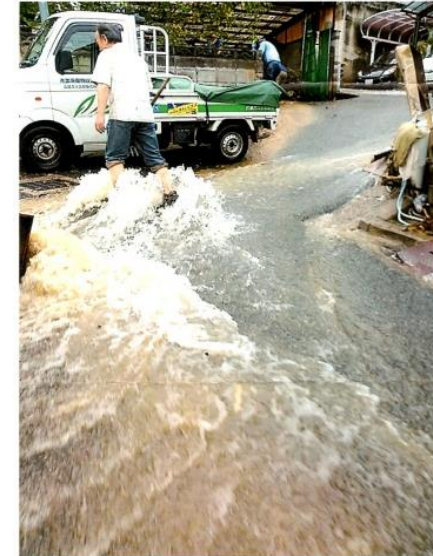


安佐北区大林



大規模土砂災害 下の谷川 “父が庭から市道へ落ち流された市道” (平成26年08月20日)

安佐北区可部東2丁目



平成26年8月20日広島豪雨災害

平成30年7月豪雨災害で、外水氾濫による大規模な浸水被害

岡山県倉敷市真備町 小田川が決壊し、1200ヘクタールが浸水。

真備町岡田地区は、5メートルを超える浸水で**垂直避難した住民が多数死亡**)

死亡・行方不明者 倉敷市52名 うち真備町 51名

床上浸水 2799棟 (倉敷市 0棟 真備は不明・救助者数 約3280名 (真備町 約2350名)



災害を防ぐ：これは現在の科学技術では無理

災害による被害を小さくしたい：防災
減災



自助
近助
共助
公助

基本的な考え方「自分の命は自分で守る」

【天気予報・避難情報・地域・過去の災害歴な

【助け合う組織】

自助：自分の命は自分で守る（家族を含む）

近助：自宅周囲の2～3軒ぐらいの近隣

共助：町内会・自治会で組織された自主防災会組織など

公助：役所などの行政機関や消防・警察

自分たちの町は自分たちで守る = 近助・共助

近助・共助で重要な人は → 困ったときに、相談に載ってくれる近所付き合い

日頃の生活の中で重要なこと

顔見知りになる（やさしい心）

- ・挨拶をすること
- ・相談すること
- ・声をかけること



- ・町内会・自治会長
- ・自主防災会長
- ・地域の役員（民生委員・福祉委員など）
- ・近所のお節介のおばちゃん
- ・昔のことを知っているお爺さん

これからの地域コミュニティーは・・・

優しい町・いつまでも暮らしやすい町・助け合える街を目指す
【継続的に発展するすべ】

現状の問題点

町内会・自治会活動が低迷

- ・ 高齢化、少子化が迫ってきた
- ・ 役員のなり手がいない
- ・ 加入率が下がる
- ・ 祭りや運動会などの地域行事ができなくなった。
- ・ 地球温暖化による台風の巨大化
- ・ 気候変動（寒暖の差が大きくなる）
- ・ 行政の限界が分かってきた。（消防団活動含む）

これからの自主防災会は、コロナ対策を図りながら

- ・ 福祉活動（災害時の要支援者対策）
- ・ 地区防災計画の策定
- ・ マイタイムラインの作成

自らの命は自らが守る

これまでの「行政主導の取り組みを改善することにより防災対策を強化する」という方向性を根本的に見直し、住民が「自らの命は自らが守る。」意識を持って自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力を支援する・・・



中央防災会議防災対策実行会議「平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について」報告より



これまでの災害事例から学びましょう

雨量特性(暫定値)			
	1999年6.29災害	2014年8.20災害	2018年7月災害
雨量観測所	広島市佐伯区 八幡川	広島市安佐北区 三入東	広島市安芸区 安芸区役所
先行雨量(mm)	157.5 (6/23~6/28)	39 (8/13~8/18)	46 (6/28~7/4)
最大時間雨量(mm)	81	121	70
3時間雨量(mm)	144	235	126
24時間雨量(mm)	232.5	284	327
48時間雨量(mm)	233.5	284	412
72時間雨量(mm)	287	285	464
累積雨量(mm)	389	323	517

天気予報の勉強は、危険度分布から . . .

危険度分布（キキクル）は大雨災害の危険度の高まりを地図上に色分けします。



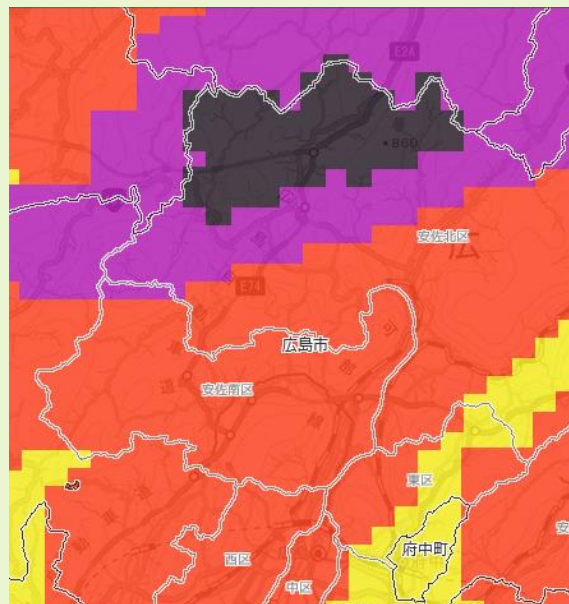
災害切迫

危険

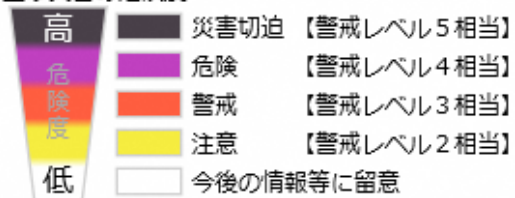
警戒

注意

キキクル：危険度分布の愛称、危険度分布を活用いただくため愛称を公募しました。

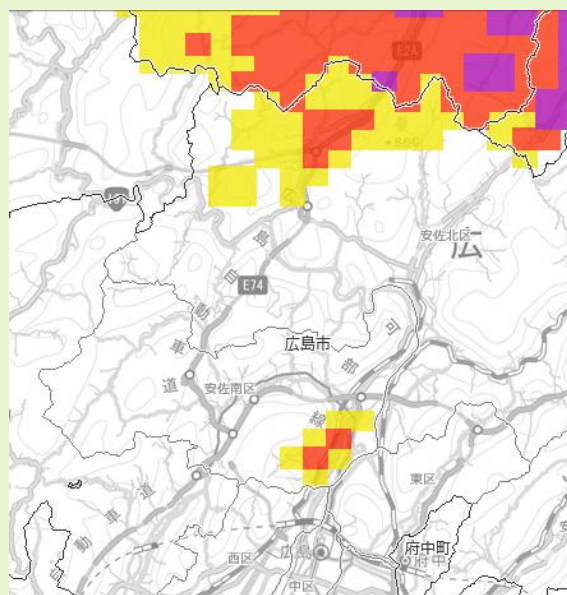


土砂災害の危険度

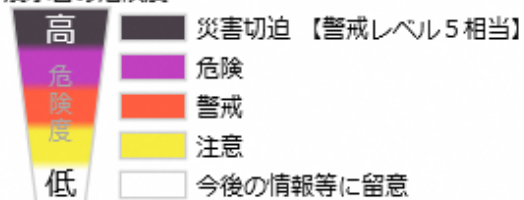


土砂災害の危険度

2時間先までの予想を含む

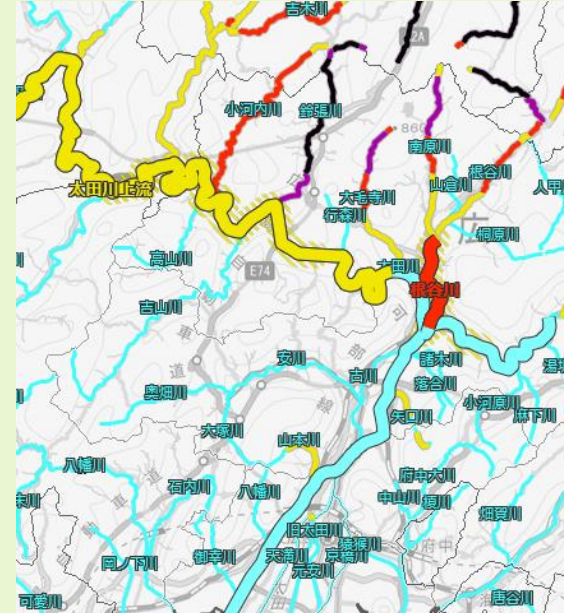


浸水害の危険度

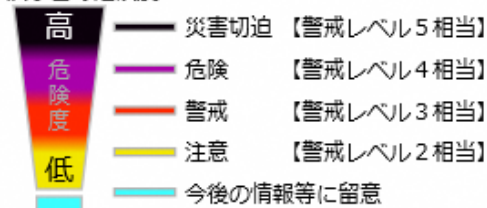


浸水の危険度

1時間先までの予想を含む



洪水害の危険度



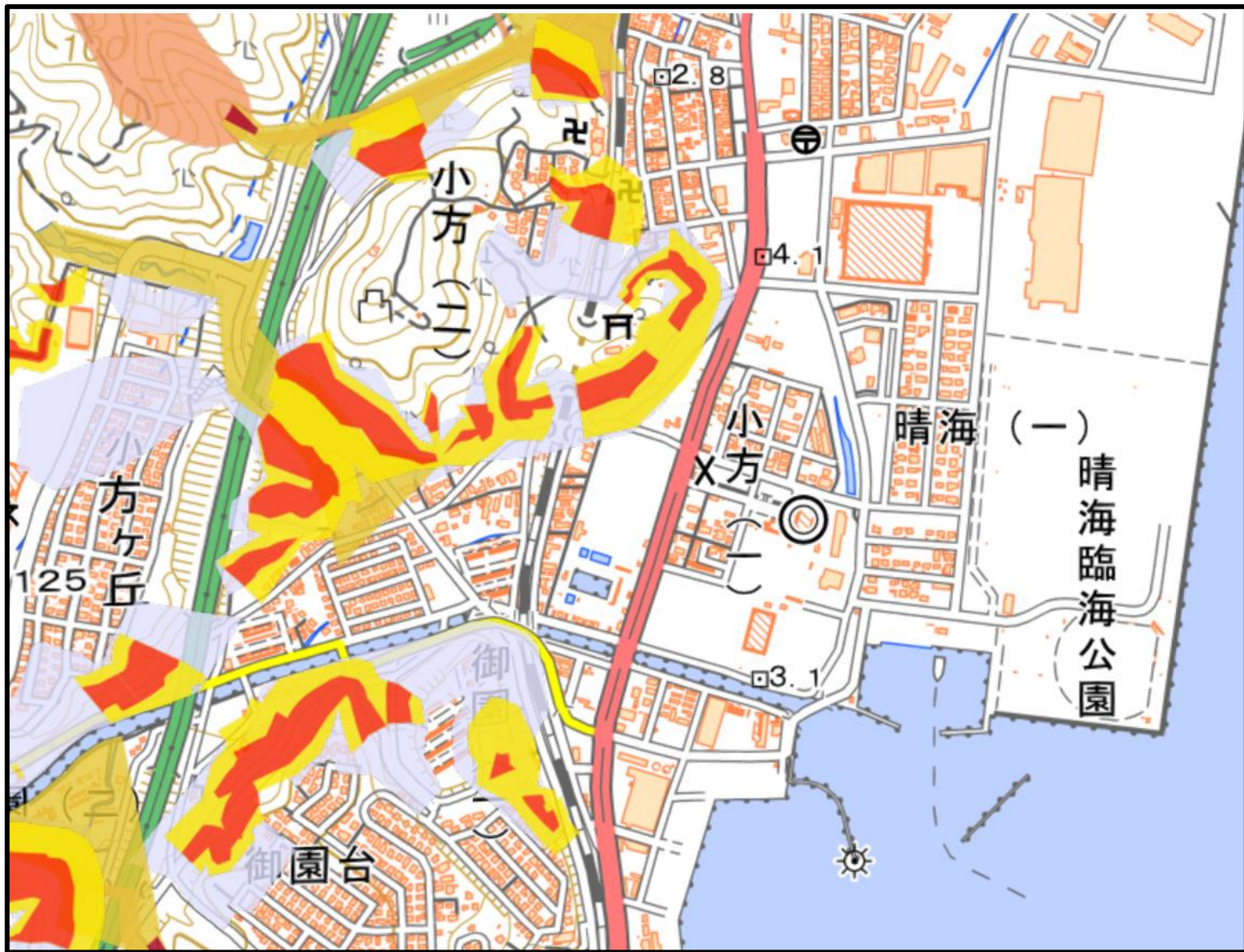
洪水の危険度

3時間先までの予想を含む

表示している危険度の配色（黒、紫）は令和4年6月30日に運用開始するイメージであり、現時点（5/29）の配色とは異なります。

地域を知る勉強（ハザードマップの確認や自分で作成するわがまち防災マップ）

重ねるハザードマップ



保存版 わがまち防災マップ
 作成者: 中岩上自主防災会
 作成年月: 令和2年6月作成

このマップは、広島市防災まちづくり基金を活用した防災まちづくり事業により作成しました。

私たちが暮らす中岩上地区は、全体が土砂災害警戒区域に指定されており、その一部は特別警戒区域となっています。豪雨時には、落合小学校への市道も危険です。早めにJA広島市落合支所や城ヶ丘団地・高陽台・高陽ニュータウンへ移動するなど、自分や家族の命を守ることを考えていきましょう。

岩上第1公園
 増水時危険箇所
 防火水槽

① 落合小学校
 ② 落合児童館
 ③ 落合幼稚園
 ④ 落合集会所

神社 岩上八幡宮
 落合川
 黄檗宮
 上岩迫川

防火行政無線 津村宅
 防火行政無線 有馬宅
 防火行政無線 大原宅
 防火行政無線 神田宅

松村製作所前
 第11公園
 川の氾濫注意
 川の合流地点
 茶木田宅庭

凡例
 土砂災害特別警戒区域
 土砂災害警戒区域

No.	指定緊急避難場所	土砂	洪水
①	落合小学校	○	○
②	落合児童館	○	○
③	落合幼稚園	○	○
④	落合集会所	○	○

読売テレビニュース YouTube公開(災害弱者を救う「個別避難計画」の作成が進まない…いったいなぜ?)



災害時避難行動要支援者支援について、落合学区で対応した内容

- ① 避難支援が円滑に行われるための体制づくり
- ② 介護状態で避難させることが困難な人に対する具体的な対応策
- ③ 支援機関(自主防災組織・民生委員等)の負担軽減策
- ④ 自治会未加入者への取り扱い
- ⑤ 避難を呼びかけても避難しようとしなないものへの対応策
- ⑥ 個別計画に支援者を明記することに抵抗感が強い。
「名簿を受け取ると道義的な責任や義務が発生するので、受け取りたく
ない」という。

落合学区の住民の命を守る活動（仕組みづくり）

落合学区町内会・自治会連合会

落合学区公衆衛生推進協議会

落合学区社会福祉協議会

落合学区体育協会

落合学区防犯組合

落合学区青少年育成協議会

落合学区女性会

落合学区子ども会

落合学区老人会

落合学区自主防災会連合会（line）

落合民生区連絡協議会

安否確認システムでつながっている

落合学区福祉委員会
（災害時要支援者避難支援制度）
・代表世話人（自主防災会長）

安否情報発信①

- ・ QRコード(二次元バーコード)による発信
 - ・ 新建カードに記載しているQRコードを、携帯電話等で読み取って、安否情報発信ページに移ります。



新建安否情報発信

ID:99002 大沢 雅則 [マイページ](#)

- 自宅待機
- 避難場所
- 親戚/知人
- 工作中
- 大丈夫

支援して

支援できません

メモ:

安否情報発信

※QRコードの読みは、アプリのインストールが必要な場合があります。
‘QRコード’で、検索すると、見つかります。

読み取った、QRコードを、登録しておく、カードがなくても、安否情報の発信が出来ます。

私たちの助け合う地域づくりの取り組み・・・人づくり・仕組みづくりを紹介します

- ・人にやさしい
- ・思いやりのある
- ・声掛けができる



①自主防災組織は、ボランティアを募り組織した
(主に防災士⇒若い方・女性の多い組織)

地域の人材を発掘しましょう

- ・正確な情報を持っている人
- ・防災に関して高い知識のある人
- ・行動力のある人



例えば

- ・天気予報士など
- ・看護師や薬剤師など
- ・地域の歴史研究家

地域の防災資源を有効に活用（協定書締結）

- ①老人ホームとの連携協定を締結し、専門職員を避難所へ派遣・一時退避場所に利用
- ②ショッピングセンター買物客用バスを避難バスに利用する協定
- ③公園やショッピングセンタの駐車場を車両避難場所に借用
- ④地域の高層ビルを緊急退避施設として使用する協定（広島市）
- ⑤地域包括支援センターと民生委員に協力を求め、災害時の要支援者個別避難計画を策定し、安否確認システムを導入し、要支援者への防災情報の発信と避難状況を把握する
- ⑥ショッピングセンターと協定を結び、被災時店内の商品を支給してもらう。

① 人づくり

(1) 防災委員会の編成

- ① 地域へ回覧し、防災・福祉ボランティア活動の希望者を募る
 - ② 地域にお住いの看護師や社会福祉士などの専門職OBをお願いした
 - ③ 子ども会やPTAなどの役員をお願いした。（女性の登用）
 - ④ 中学生・高校生を選出
- ※現会長は、自主防災会の組織。

(2) 地元機関との連携

- ① 特別養護老人ホームなごみの郷
- ② 口田地域包括支援センター
- ③ 安佐北区障害者基幹相談支援センター
- ④ 広島県立特別支援学校
- ⑤ 高陽地区小規模緊急避難所連絡協議会（就労移行支援・就労継続支援部会）
- ④ 区役所（地域おこし推進課・厚生部地域支え合い課）

② 仕組みづくり

(1) 落合学区福祉委員会の発足

- ① 町内会・自治会連合会
- ② 社会福祉協議会
- ③ 民生委員児童委員協議会
- ④ 自主防災会連合会・防災委員会

(2) 連絡網の整備

- ① 防災委員連絡網⇒ラインを活用
- ② 福祉委員会連絡網⇒安否確認システムの採用
(学区役員全員⇒全住民) (ホームページ開設)

(3) 助成金の活用

- ① まるごと元気 (地域コミュニティー活性化補助事業)
- ② 地域団体連携支援基金事業費助成金の活用

災害時一人も取り残さない取り組み

(1) **落合個別調書**の作成（民生委員と合同で作成）

(2) 役割分担

◎ 3者（行政・親族・近隣支援者）会議の設定、会議参加

- ・自治会長・町内会長の役割（近所の支援者の掘り起こし）
- ・民生委員（高齢者や障がい者などへの自宅訪問や見守り活動時に知りえた情報の共有）
- ・社会福祉協議会（区社協などからの情報を提供してもらう）
- ・自主防災会（主体的活動・助成金申請・安否確認システムの登録支援・ホームページの運用・安否確認システムの運用や管理など）
- ・包括支援センター（個別調書のコピー、管理）

災害時要支援者避難支援にかかる任務分担

◎平常時



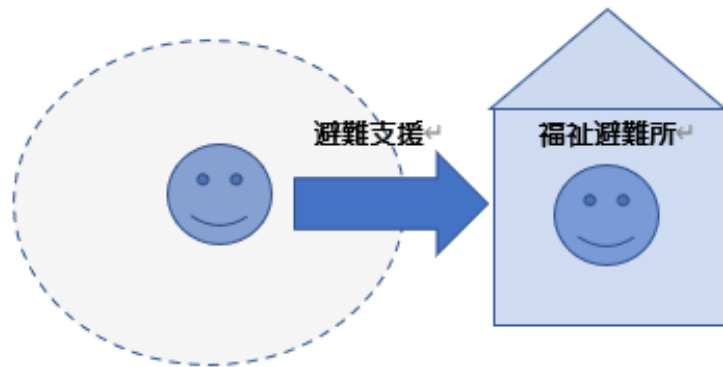
民生委員・福祉委員

・毎年1回以上、出水期（6月）までに個別調書の内容を確認し変更があれば防災委員・町内会長へ通知する。

防災委員・町内会長

・個別調書により、避難支援者の再確認を行う
 避難所運営について、訓練研修会を行う。

◎災害時



民生委員・福祉委員

・避難所での情報収集と避難者の支援
 ・福祉避難所の支援

防災委員・町内会長

・レベル3で避難支援者へ担当の要支援者の支援に当たるよう要請する。
 ・避難完了の確認を行う。

◎落合学区の災害時避難行動要支援者の状況

	町内会・近隣者が避難支援	親族が避難支援	福祉施設職員が避難支援
高齢要介護者	2	8	2
身体障がい者	2	16	2
一人暮らし高齢者	2	2（要注意1名）	2
知的障害者	2	4	2
精神障がい者	2	2	2
難病患者	2	1	2
その他	2	2	2



近助・共助の重要性は、わかってはいるが・・・？

あいさつすることで変わる

- ・ 交通網が発達し、仕事場と住宅地が離れている
- ・ 地元で農業・林業で働く人が減少した
- ・ 核家族化（2世代での生活が増えた）
- ・ お母さんが働く世帯が増えた
- ・ 町内会・自治会へ加入世帯が減少 など



- ・ 近隣で助け合うことができなくなった
- ・ 災害が大規模化・広域化
- ・ 地域のことを知らない
- ・ 生活が向上し、自然災害に対しても何とかかなると思う人が増えた（行政への期待）



- ・ 自主防災組織として災害の備え（研修・訓練の実施）
- ・ 声掛けによる避難率の向上＝正常性バイアスの排除
- ・ 地域として安全率を向上させる＝危険な場所の改修

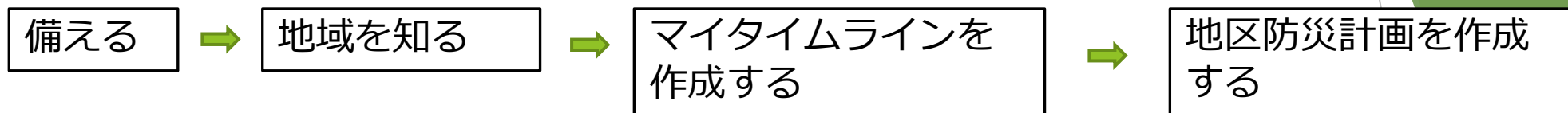
- 地域コミュニティへの参加
- ・ 地域活動（子ども会など）参加
 - ・ 町内会、自治会からの情報
 - ・ 公民館などの防災セミナー
 - ・ 災害弱者の把握
 - ・ 地域の有資格者（看護師など）
 - ・ 災害歴
 - ・ 防災訓練へ参加
 - ・ 備蓄倉庫の確認
 - ・ 障がい者支援
 - ・ 連携協定の締結

- ・ 避難場所としての連携（スーパー、百貨店など）
- ・ 福祉施設として連携（老人ホームなど）
- ・ 駐車場などとの連携（車両避難など）

復興ボランティア活動
(地域全体で取り組みましょう)



計画避難は・・・



○自分で避難できない方は

- ①自主防災組織の活動に参加する
- ②友達を作り呼びかけ避難体制を（自主防災組織）

○災害時要援護者

（一人暮らしの老人・障がい者など）

- ①避難しなくてはならなくなった時期を教える。
- ②災害時支援してくれる人を作る
（自主防災組織：探してくる）

犠牲者ゼロを目指し、近助で計画避難

ご清聴ありがとうございました。

